

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (52) (A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

米国の共和党・民主党の政治的な binary opposition (2 項対立) の意味思索で Trump 氏の tweets 読みは手早い。語の意味 (語の読み) を追うのであるが、2 項を相互排他としてではなく両者を加え $1 + 1 = 3$ (?) のように考えたのがフランスの構造主義思想家で精神分析家 J. Lacan であったことが知られている。今回も lexical semantics (語彙意味論) の一端として Trump 氏の意味劇場(theater of meaning)を覗いてみる。(1)では最初に内容を日本語で提示する。日英語の対比・対照も英語言語を見ていく上で手早いが、『日英語の比較研究：主観性をめぐって』(大江三郎著)などは本会での EP 本のもつ構造を思索する上でも必読書の 1 つとなる。(2)はメキシコ国境移民政策に関するものである。

(1)「ワーッ！6月18日(火)のフロリダ州オーランドでの(大統領選公式出馬)表明では2万人収容の集会場にもう7万4千人が申し込んでいるとたった今、聞いたがこれまでのイベントとしてはこれが“最高にすごい”もののようだ、フロリダで会おう！」という Trump 氏の思いであったが、これが encode 化され次の tweet 文となった。

Wow! Just got word that our June 18th, Tuesday, ANNOUNCEMENT in Orlando, Florida, already has 74,000 requests for a 20,000 seat Arena. With all of the big events that we have done, this ticket looks to be the “hottest” of them all. See you in Florida! (June 12, 2019)

▲本連載(48)の(1)とつながる。1週間後の6月18日に2期目の大統領選出馬を表明すると言っているが、実際この日に正式表明しスローガンの MAKE AMERICA GREAT AGAIN! はもう達成したとし、替わりに KEEP AMERICA GREAT! を前面に出した。

上で日本語訳をしたが、自分で訳し元の英語文が復元できるか? である。これは知る人ぞ知る「復文式和文英訳」というもので、江戸時代・明治時代の漢文訓読文から原文に復元する漢文修得法をヒントとするものでもある。専門の日英語対照研究、また実践としての翻訳/通訳にはきわめて有益なはずであるし、英語が手早く根づく秘技である。

下線とした「関係・関連」を意味する with の使い方には注目しておいてよい。もう1つの下線語 see と関連し、挨拶の意味で See you. (さようなら) などの提示は EP 本 I・II では排除された。こういうものを B. Malinowski (B. マリノフスキー) [1884-1942] は phatic communion (社交・儀礼言語使用) と命名した〔これに関しては Ogden, C. K. & Richards, I. A. (1923) *The Meaning of Meaning*, pp. 296-336 など参照〕。

本連載(14)の(2)ですでに扱ったので確認となるが、太線の Basic 語でラテン系の語 event の[ven]の音は「来ること、往来すること」の意味をもつ。Basic 語 invention、un-Basic 語 adventure, prevent, avenue, convenient, souvenir (土産・記念品・形見) などはすべて同系。ラテン系のスペイン語で venir は to come の意味であるが、実はゲルマン系の語で Basic 語 come がこの語群に入り同系である。convenient (便利な) も「come すること」である〔他の例は拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(100)参照〕。

太線の Basic 語 ticket はここでは「候補者」の意味となる。本連載(20)の(1)、(37)の(1)で見たが改めて確認とするが、PIE etymon の音素形は/STEIG/ (/STEIK/)とされ「杭、棒」のことで[tik], [stik], [stok], [tæk]などの音となり Basic 語 stick, sticky, stitch,

stocking, attack は同系だと感知したい。ticket は、元来は杭に掟や守るべき規律を記した「お札 (ふだ)」であった。stocking は罪人が木の切り株の穴の中に脚を入れられ、動けなくされたことに由来する。un-Basic 語 stock, stake, stack, staff, steak, etiquette などすべて同系。staff「スタッフ」は元の「棒」の意味から「用心棒」ということになる。steak の「肉」は串に刺したものであった。etiquette は ticket から類推できる。やはり守るべき決まり事を書いた木のお札 (ふだ) であった [同上拙著、第二部、例(5)参照]。

上文の pattern を平面的な slash (/) による分割ではなく立体的・動的に確認する。

Matrix Screen of Output English (MSOE /émsou/)

[Automatic Sorting Machine for Output English (ASMOE /æsmou/)]

STATEMENT					
		THEME : NP	RHEME : VP		
STR	C/C	N ₁	COP/V	N ₂ /N ₃ /A	ADV
1	Wow !	φ	Just got	word /	φ
2	that	our June 18th, Tuesday, ANNOUNCEMENT in Orlando, Florida, (/)	already has	74,000 requests	for a 20,000 seat Arena. //
1	φ	φ	φ	φ	With all of the big events
2	that	we	have done, /	φ	φ
3	φ	this ticket	looks to be	the “hottest” of them all. //	φ
1	φ	φ	See	you /	in Florida. //

(備考) 単一斜線 (/) は各文での意味的 2 分割線。文中の Wow ! など感嘆詞は N. Chomsky 風に complementizer (補文標識語)、discourse marker (談話標識語) と考える。また、言い淀みや談話のつなぎ語 well, like, you know, etc. の filler (補充語) も C/C の分類とする。

空項 (φ) を含め C. J. Fillmore 風にも frame pattern を見抜いていくのである。structuralism (構造主義) を背景とする実践での pattern recognition practice は C. C. Fries に代表もされるが、現実には pattern そのものは目には見えない (不可視の) 隠れた秩序で英語でのこれが見抜けなく認知できないのが「英文パターン認知症」(?) ということか? とは前回言った。種 (しゅ) たるヒトは、その生活空間 (社会) の中で言語に内在する pattern を発見 (recognition) していく生き物である [EP 本 III, pp. 64-69 参照]。

第 1 文では N₁ で日付・曜日・場所、そして N₂ と ADV で数字も出てくる。記憶上やや負荷もかかるか? 通訳者なら日付・曜日・場所・数字などは必ずメモ書きとなろう。

[以下、スペイン語翻訳版もある tweet (2018.01-05) より — 2 言語対照]

(2) I don't believe the Democrats really want to see a deal on DACA. They are all talk and no action. This is the time but, day by day, they are blowing the one great opportunity they have. Too bad ! (January 13, 2018)

cf. No creo que los Demócratas realmente quieran llegar a un acuerdo sobre

el DACA. Sólo hablan y no actúan. Este es el momento, pero día tras día, arruinan la gran oportunidad que tienen. ¡Muy malo! (13 de enero, 2018)

▲メキシコとの国境問題では、移民救済制度である DACA (Deferred Action for Childhood Arrivals) がある。これは若年期での米国への不法入国者に対する強制退去処分の猶予に関するものである。すなわち、不法入国の親から米国で生まれ育った子供などの処遇に関わる政策で、何かと難しい問題が絡んでいる。そもそも歴史的に新大陸アメリカは移民の国であり、移民はすべて dreamers (夢見る人) であった。

この移民政策 DACA は Obama 政権時代に導入されたものであるが、Trump 氏は 2017 年 9 月に撤廃を宣言していた。上の tweet はその 4 ヶ月ほど後のものである。「民主党議員は DACA の問題で合意したいとは本当には思っていない、彼らは口先だけで実行なく絶好のチャンスを逃している、実におかしい！」という内容である。

下線とした see は事柄を視覚化する言い方である。to see a deal on DACA は Basic では to see an agreement on DACA でよい。to come to an agreement on DACA / to make an agreement on DACA でもよい。ただし、Basic にいわゆる動詞 V は 16 語しかないからといって 16 動詞に比重を置く思考法は Basic に習熟できない。

Basic 思考は 16 動詞ではなく、他に意識が傾いている状態が望ましい。16 動詞は徐々に自然と喚起されるようになる。3±α 語から 7±α 語程度の Basic で手早く事柄を考える習性をつけるのである。これの積み上げで文や段落テキスト Basic 文にすることがどんどん楽になるはずである。特に中身のある内容を考えるとき一般の英語より初めから語の定まっている Basic のほうが焦点も定まり、基本的・本質的に容易である。ただし 相当な年季がいる。年季がいるところが実践面での Basic の大きな欠点。国際補助語 (international second language) などにはなり得ない。超高尚な哲学言語だからである。

上での下線文 They are all talk and no action. (彼らは口先だけで実行なしである) は簡潔な表現である。Basic に相当な関心のあった英国の作家 George Orwell は *Politics and the English Language* 『政治と英語』(1946) で simple English を推奨したが、ここでは action が非 Basic 語である。すべて Basic で次のように考えるとすると空所に入る語は？ 固定表現、定型表現、その状況で用いる定番表現を見抜いていくのである。

They are only saying in (w) and not doing in (a).

「言動」の意味であり動詞での saying, doing とは別に最初の空所に word を、そして 2 番目の空所に act を入れ They are only saying in word and not doing in act. でよい。裏技を用いる例である。Basic 思考で 16 動詞に比重を置くのは要領が悪く遠回りとなる。

Basic 英語には前回も触れたいわゆる三種の神器(the Three Sacred Treasures)が潜んでいると思える。これも Basic では the Three *Holy* Things などとも言えるわけであるが (*holy* はプラス α Basic 語)、Basic には剣(military blade)・鏡(looking-glass)・勾玉(pot / vessel / jewel)が備わっている。人との交流で言葉が武器の剣、その言葉の意味を映し出すのが鏡、そして意味を魂として内在するのが勾玉か？いずれにせよ、Basic は特別に価値ある礎石(the keystone of great and special value)であると言える。

上の tweet 中の太線語 opportunity(機会)の原義は「運ぶこと」であり Basic 語 **porter, support, transport, important**、プラス α Basic 語 *sport, import, export* などはいずれも同系。*sport* は disport (気晴らしをする) の短縮語。さらに [p] が [f] となった Basic 語 **fertile, offer, different** など同系であるし上記、略語 DACA での deferred (延期された) も un-Basic 語であるが同系 [他の多くの例は同上拙著、第二部、例(66)参照]。

cf. のスペイン語文は、やはりすべて英語からの単なる語の置き換えであることが分かる。文中の *realmente, acuerdo, actúan* (< *actuar*), *momento, día, arruinan* (< *arruinar*), *gran, oportunidad* に対応する英語で、同系語がそれぞれ **really, agreement, act, moment, day, ruin, great, opportunity** である (太字体は Basic 語)。なお、最初の否定文 *No creo que ... quieran ...* がスペイン語では叙想法となるところはポイント。

実際に発話されたものとも仮定して音声上での *sonority* (響き方) も意識しておきたい。今回、音韻的(phonological)・音響的(acoustic)な面から上の *tweet* 文例で日本人にとって真の *hearing* の難しい子音のうちの 1 つである [l] の現れる箇所注目しておこう。

1)' Wow ! Just got word that our June 18th, Tuesday, ANNOUNCEMENT in Orlando, Florida, already has 74,000 requests for a 20,000 seat Arena. With all of the big events that we have done, this ticket looks to be the "hottest" of them all. See you in Florida !

2)' I don't believe the Democrats really want to see a deal on DACA. They are all talk and no action. This is the time but, day by day, they are blowing the one great opportunity they have. Too bad !

英音の聴取では音 [l] への注目とともに音素 /l/ のすくい取りが要領の 1 つとして手早いだろう。日音のラ行音とはまったく違う [r] 音と [l] 音の 2 つの *sonorants* (鳴音) を同時に追っていても焦点がずれ定まりにくい。徹底的にまずはどちらか一方にのみ集中し、違って響くほうが他方だと知覚すればよからう。子音 [l] のほうに焦点をあて、まずはこの音に耳を開いていく手法がある。この音と違って響くほうが半母音 [r] だということになる。

なぜ [r] 音ではなく特別に [l] 音への注目かであるが、これは側音(lateral)であり舌の両側から息の流れる美しい音と思うからである。ラテン系の語 *lateral* という語そのものにも [l] 音と [r] 音がある。[l] 音には 2 種あり語頭に現れる *light l*、語尾などに現れる *dark l* として分けられるが、どちらも優雅さを感じさせる音であると思う。この音の違いに敏感になりたい。自分で言えても聴けない、聴けるとは限らないのである。

[l] 音に関し思い出がある。筆者は日本での学部学生時代に教室でいつも前のほうに座りアメリカ人教授の口腔を注意深く観察ばかりしていたが、ある日 *well* という語が出たとき語尾の [l] で舌が上向きの弓形になり先端が一瞬軽く上歯茎にあたった。後ろの席ではこの [l] 音は聞こえないのでは？とさえ思えるような音ではあったがそんなことは決してないわけで、そういう舌の動きと舌の両側からかすかにではあっても流れ出る息のゆえ [wɛl] は [wɛ] であり、末尾に [l] なしの [wɛ-] 止まりの音とは違うわけである。当たり前のことであるが調音法(articulation)上での印象的な一瞬で、この光景が記憶に残っている。

そもそも *lateral* の *later* には「片側(side)」の意味がある。ゲルマン系の Basic 語 **side** はたとえばスペイン語では *lado* である。[l] 音と [r] 音の識別・弁別(discrimination of 'l' sounds from 'r' sounds)につづく次のレベルは、語彙力とも絡むが文中での「語」(words)がつながるのではなく **1 語 1 語が語としてすべて区切れて聞こえるか** である。母語話者には鮮明に区切れが識別できて日本人にはままならず、まさに大きな泣き所の 1 つ。

上の 1)', 2)' で [l] 音をもつ語を改めて列挙すれば Orlando, Florida, already, all, believe, really, deal, blowing となるが、語頭・語中・語尾に現れる [l] 音にこだわりつづけ徹底的に聴き込むとよい。英音全体に耳を開いていくことにもつながるはず。ここでの語のうち **all** と **blow(ing)** は Basic 語であるが、他に Basic 語でたとえば **religion, relation, etc.** は [l] 音と [r] 音を同時に含んでいる。[l] と [r] が同じように聞こえる壁・殻を破らない限りは、やはり英音の世界に本当には決して入れない。日本人の民族聴覚脳の改造となる。

